

【札幌市立西岡中学校】子どもの命の大切さを見つめ直す月間 ～かけがえのない命を、みんなで守り育む～

夏休み明けから9月にかけては、生活リズムの変化や人間関係の再構築に対する不安から、思春期の子どもたちの心が特に不安定になりやすい時期です。

夏休み

9月

札幌市ではこの期間を「子どもの命の大切さを見つめ直す月間」と位置づけ、自他の命を尊重する心（自己肯定感）を育み、悩みやSOSを一人で抱え込ませない環境づくりを全校体制で推進します。



道徳教育の推進

「生命の尊さ」や「思いやり」をテーマにした授業を通じ、自分と他者のかけがえのない価値に気づき、命を大切にすることを育みます。



教育相談体制の強化

定期的なアンケートや個別面談を実施し、生徒の小さな変化や言葉にならないSOSを早期にキャッチアップします。



自己肯定感と 信頼関係づくり

互いの個性や良いところを認め合い、自他を尊重できる人間関係・クラスづくりを推進します。仲間からの承認を通じて、中学生時代に重要な「自己有用感」を育みます。



いじめ防止の取組

「いじめは絶対に許されない」という毅然とした指導とともに、傍観者にならないための意識啓発や、SNSトラブル等の見えづらいうリスクの未然防止に努めます。

子どもたちを包み込む「見守り」と、いつでも頼れる「相談窓口」

私たちにできる「見守り」の輪

家庭での見守り (一番身近なセーフティネット)

- 小さなSOS・変化の察知

「食欲がない」「朝、体調不良を訴える」「スマホを隠れて使うようになった」など、中学生特有の言葉にならないサインを見逃さない。



- 話を否定せずに聴く

意見を途中で遮ったり、すぐにアドバイスや説教をしたりせず、「そうだったんだね」とまずは気持ちを真っ直ぐに受け止める（傾聴）。



- ありのままを認める

「あなたがいてくれるだけで嬉しい」というメッセージを伝え、結果ではなく存在そのものを肯定し、心の安全基地となる。



地域での見守り (社会からの温かい眼差し)

- 日常の温かい見守りと声かけ

登下校時や地域での「おはよう」「おかえり」の何気ない声かけが、子どもに「見守られている安心感」を与えます。



- コミュニティ・スクール（CS）の連携

学校運営協議会等を通じ、地域全体で学校と協働し、地域の力で中学生の健やかな育ちと安全を支えます。



悩みがあるとき、どうしても身近な人に話づらいときは、専門の相談窓口があります。保護者の方からのご相談も受け付けています。一人で悩まず、いつでも頼ってください。



いじめ電話相談（少年相談室）
0120-127-830（フリーダイヤル）



札幌市子どもアシストセンター
0120-66-3783（フリーダイヤル）



メールで相談できる窓口
（アシストセンター）
assist@city.sapporo.jp



命の危険を感じた時、または自分を傷つけてしまう恐れがある時は、ためらわずに専門機関ににご相談ください。西岡中学校も常に皆さんの味方です。